

■コメント

1. 水痘

定点当り2.92人とほぼ横ばいとなっており、例年同時期と比べて多い状態が続いています。佐伯区では7.0人と特に多く、西区5.0人となっています。

2. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当り2.63人とやや減少していますが、例年同時期と比べて多い状態が続いています。佐伯区では4.3人と特に多く、安芸区3.5人、南区3.0人、安佐南区2.5人、中区、安佐北区ともに2.3人、東区2.0人となっています。

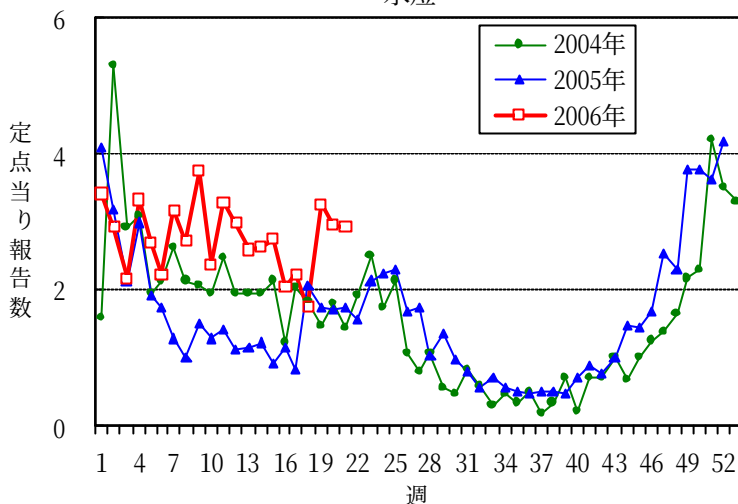
3. インフルエンザ

定点当り1.81人と横ばいとなっています。この時期としては多くなっています。

4. ヘルパンギーナ

定点当り0.67人と急増しており、流行の兆しがみられます。今後の動向に注意が必要です。

水痘



■5類感染症報告状況 (定点把握対象分)

疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注1間)	発生記号	疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注1間)	発生記号
インフルエンザ(注2)	65	1.81	0.34	→	麻疹(注3)	-	-	0.22	
咽頭結膜熱	9	0.38	0.48		流行性耳下腺炎	20	0.83	1.30	↘
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	63	2.63	1.41	↘	RSウイルス感染症	-	-	-	
感染性胃腸炎	156	6.50	5.82	↘	急性出血性結膜炎	-	-	-	
水痘	70	2.92	1.95	→	流行性角結膜炎	8	1.00	1.20	
手足口病	2	0.08	1.65		細菌性髄膜炎	-	-	0.03	
伝染性紅斑	7	0.29	0.54		無菌性髄膜炎	1	0.14	0.03	
突発性発疹	17	0.71	0.82		マイコプラズマ肺炎	2	0.29	0.34	
百日咳	1	0.04	-		クラミジア肺炎(注4)	-	-	-	
風しん	-	-	-		成人麻疹	-	-	-	
ヘルパンギーナ	16	0.67	0.36	↑					

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1.2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1.5～2の増減
微増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

報告数が少ないなど、傾向の判断が不適切と思われるものについては、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数 (小児科定点を含む)	36
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

注1) 過去5年間の同時期平均(定点当り)
 注2) 高病原性鳥インフルエンザを除く
 注3) 成人麻疹を除く
 注4) オウム病を除く

■1類～5類感染症報告状況 (全数把握対象分)

類型	疾患名	報告数	累積	備考
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	3	男性(20歳代)・O157

■ 5類感染症報告状況の推移 定点把握対象分)

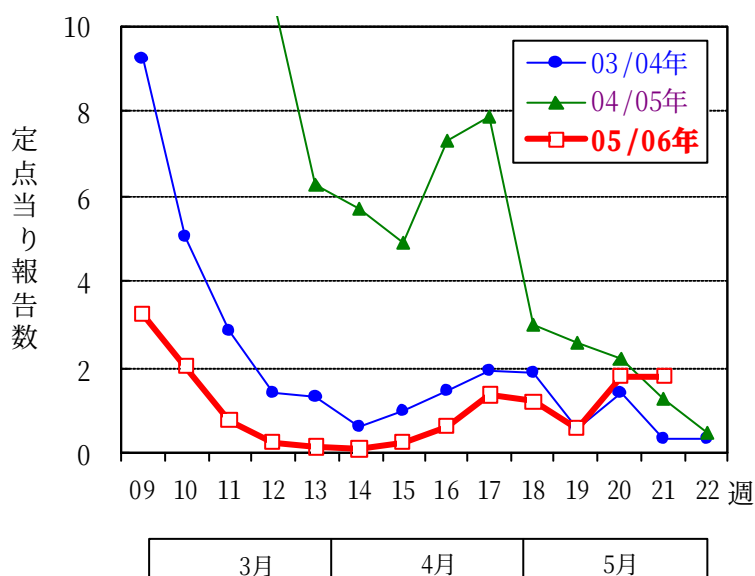
			インフルエンザ (注1)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん(注2)	流行性耳下腺炎	RSウイルス 感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジア肺炎 (注3)	成人麻しん	
報告数	広島市	第17週	48	6	40	219	51	-	5	11	-	-	1	-	23	-	-	6	-	1	1	-	-	
		第18週	44	6	43	142	42	1	10	10	-	-	1	-	18	-	-	6	-	-	1	-	-	
		第19週	21	9	37	159	78	-	7	14	-	-	-	-	19	1	-	10	-	-	4	-	-	
		第20週	67	8	76	185	71	-	4	15	-	-	-	3	1	26	-	-	16	-	3	-	-	
		第21週	65	9	63	156	70	2	7	17	1	-	-	16	-	20	-	-	8	-	1	2	-	-
定点当り	広島市	第17週	1.37	0.26	1.74	9.52	2.22	-	0.22	0.48	-	-	0.04	-	1.00	-	-	0.75	-	0.14	0.14	-	-	
		第18週	1.19	0.25	1.79	5.92	1.75	0.04	0.42	0.42	-	-	0.04	-	0.75	-	-	0.75	-	-	0.14	-	-	
		第19週	0.57	0.38	1.54	6.63	3.25	-	0.29	0.58	-	-	-	-	0.79	0.04	-	1.25	-	-	0.57	-	-	
		第20週	1.81	0.33	3.17	7.71	2.96	-	0.17	0.63	-	-	-	0.13	0.04	1.08	-	-	2.00	-	0.43	0.43	-	-
		第21週	1.81	0.38	2.63	6.50	2.92	0.08	0.29	0.71	0.04	-	-	0.67	-	0.83	-	-	1.00	-	0.14	0.29	-	-
全国	第19週	0.61	0.65	2.04	5.83	3.15	0.24	0.40	0.65	0.01	-	-	0.29	-	1.56	0.06	1.31	0.01	0.03	0.40	-	-		
	第20週	0.87	0.67	2.53	5.88	2.36	0.35	0.60	0.71	0.01	-	-	0.54	0.01	1.68	0.04	1.05	0.01	0.03	0.39	0.01	0.01		

注1)高病原性鳥インフルエンザを除く 注2)成人麻しんを除く 注3)オウム病を除く

■新たに判明した病原体検査結果

診断名	患者 年齢	性別	発症 年月日	検査材料	検出病原体
無菌性髄膜炎	3	男	2006/04/08	髄液 糞便	エコーウイルス18型
無菌性髄膜炎	0	男	2006/04/10	咽頭拭い液	パレコウイルス
無菌性髄膜炎	2	女	2006/04/17	髄液	エコーウイルス18型
咽頭結膜熱(疑)	3	女	2006/04/16	咽頭拭い液	ヒトメタニューモウイルス
気管支炎	1	男	不明	咽頭拭い液	ヒトメタニューモウイルス

【参考】広島市における3月から5月のインフルエンザ流行状況



インフルエンザの流行は年によって多少異なりますが、通常12月下旬ごろから流行が始まり、最も気温の低い1月から2月ごろピークを迎えた後は減少を続け、3月下旬から遅くても4月中にはそのまま終息します。

しかし、2003/2004年シーズンから3シーズン続けて、3月下旬に終息傾向にあったインフルエンザが、4月に入って再び増加し、4月の下旬ごろに小さなピークを迎え、5月になっても患者の報告が続く状況となっています。これらの小ピークは、シーズン全体の流行の中では小さいものですが、決して無視できない大きさとなっています。

このような、一度終息状態にあったインフルエンザが再び増加し、しかも5月になっても流行が続いているというパターンは、以前にはみられませんでした。

来シーズン以降もこのような状況が続くかどうかわかりませんが、今後この時期のインフルエンザの発生動向に注目する必要があると考えられます。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。
なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.jp/shakai/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail eiken@city.hiroshima.jp

2006年第21週 6月22日～5月28日)